



三笠を科学する

第10回ふね遺産に認定

横須賀の現在・過去・未来を考える会(GKM)
代表幹事 毛利邦彦(毛利塾塾長)

とある知人からGKM月報〇号で面白くもないと「びしりと」助言を頂いた。なるほどと思ったので、今月号からタイトルは「燃えよ！横須賀」とした。横須賀人の情熱を醸し出す定期刊行物を目指したい。

さて三笠が第10回ふね遺産にこの度認定された。2017年に始まった遺産制度であるが、日本船舶海洋工学会(会員数4000人)が主宰している。目的は歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を表彰する制度。三笠は54番目の認定となった。受賞の主な理由は「20世紀初頭の英国造船技術等を今に伝える世界最古の現存鋼鉄戦艦」で、三笠には建造時の造船技術が当時姿がそのまま残っている。具体的には船体当時のままである。例えば、船体のアーマーを取り付ける「アーマーボルト」である。このボルト大型発電機のタービン車室の固定に用いられているなど技術伝承がされている。三笠の訪問者はピークで25万人を超えたが、コロナ禍で7万にまで減った、最近20万人を超えた。三笠公園が改修でありこの遺産が少しでも訪問客の向上に寄与できるなら、横須賀市民として無上の喜びである。7月14日授賞式が東京にて開催される。



「横須賀製鉄所建設現場からレポート」⑤

慶応3年製鉄所で修理した船

横須賀製鉄所の第一船台は、慶応3年(1867年)前半には完成し、7月に第一船を進水させます。船台では修理も出来ました。まず和暦10月10日、幕府軍艦丸が7日に「蒸気罐其外」の委託修理を終え、品川沖へ戻ってきたと、海軍奉行並織田信受等から報告が上がりました。既に横須賀でボイラー修理まで可能になっていたのです。さらに、5日前には、若年寄京極高富が首長ヴェルニーへ直接手紙を書き、将軍家の親族である紀伊徳川家所有蒸気船光明丸の修理を依頼し、他にも同月中には丸にボイラー破損等があるので、勘定奉行小栗忠順から老中松平康直宛に、やはりヴェルニー宛に手紙を書いて貰いたいと懇請していました(「多門櫓文書」)。

1ヶ月でこれほどの依頼があったとは驚かされます。これまでボイラー修理は長崎製鉄所、或いは大規模な場合は中国の上海まで出掛けていたのです。日本の造船史上画期的な時代が到来しました。(安池尋幸)

GKMから一言

船廠史では読み取れない横須賀製鉄所が幕末で活動していた事は新しい情報です。質問があればmourijukuにメールをお願いします。

GKMの月報は配布。会員でメール登録されている方はメール送付いたします。また©Wattandedison にアクセス。©「歴史。博物館」をクリック©横須賀の現在・過去・未来を考える会を開く©GKM月報の1号から閲覧できます。(PDF)

GKM幹事 永久淳雄が3月1日付けで出版

◎横須賀に海軍があった頃
◎価格 2500円(+郵送料430円)
◎著者 永久淳雄 横須賀海軍史研究者
◎出版 GKM
◎販売 下記メール、催事、毛利塾にて
◎内容 横須賀に海軍があった頃(出版:2023年4月1日発行)の写真集版で、中綴じに、横須賀の海軍施設の場所と名称が網羅している。今は解体された施設も本人が撮影した貴重な写真集である。特に巻末の海軍施設所在地の地図と撮影箇所が分かる工夫をしております。

Watt & Edison

このサイトは京都大学名誉教授が公開された文献を掲載されております。幅広い分野を網羅しております。

賛助会員の制度があります。1口1万円から何口でも。本月報に広告を景お菜出来ます。Mourijukuまで連絡ください。

風洞おじさんの独り言⑥

夏島にあった巨大風洞について、4月30日から5月11日まで市民活動サポセンにて展示を行った。この写真展には中央図書館で発見された夏島の発動部・噴進部の実験設備。未発表の写真と橘花を開発した種子島時休氏がこの実験設備を用いた燃焼装置の論文(昭和18年)をフル展示した。約100名を超える記名者が居たが、閲覧者は倍以上いた。展示会の最中に、追浜の地元グループなどとGKMが提案している「海軍航空・技術ミュージアム構想」について第1回の打ち合わせを持った。実物の飛行機の入手は予算。設置場所など無理難題ばかりで荒唐無稽と笑止ものである。市議会議員に話せば、前向きの話は出ない。予算がないと。これでは少しも前に進まない。またGKMのその具体的な内容を提示できていない。ある上司曰く、「考えるのはタダである。」市民・国民が納得できる環境を醸成する必要がある。

ヴェルニーによる横須賀製鉄所は海軍工廠から空技廠へ、そして戦後活躍した0系新幹線は空技廠出身者の航空技術の開発手法が採用され時速200キロが達成できた。西の呉市の大和ミュージアムに、東の海軍航空・技術ミュージアムはバランスが良い。実現に向けて、個性的な市民団体が集結して全体として美しい形を完成したい。横須賀にこの環境が熟せば行政を取り込む機会となる。どうしたらよいか検討中であるが、魁より始める。「zoom」で風洞おじさんが空技廠の謎、巨大風洞の謎解きを配信する。第1回は7月24日(日曜日)午後7時から 参加希望者は連絡くださいZOOMのURL送付します。(毛利・永久)



海軍航空技術ミュージアム構想(案)

江沢暁彦作品展⑤
「海底探査船」



Poseidon-1
深田サルベージ(株)
4000トン



艦内の状況と満艦飾
Z旗の位置が違う

フランス人医師サヴァチエの生涯⑤ (江沢暁彦)

サヴァチエはフランス南西部のロシュホール海軍医学校を卒業した外科医である。インド、中国、日本に寄港してアジアの情勢に通じていた。特に馬関戦争(1863年から64年)には従軍していた。この経験がサヴァチエを横須賀製鉄所赴任の伏線と思う。製鉄所赴任時は妊娠中の妻(リュシー)と長女(リュイズ)を連れて来た。当時の日本は政情が不安定な時代で、疫病が流行するなど家族での赴任には相当の覚悟があったと思う。サヴァチエは植物学者として知名度が高い。それは三条実美太政大臣が壮行会の時に植物図鑑出版の賛辞を送ったことと赴任後のマジエシャンヌ号に乗船した時に採集した植物標本の数である。牧野文太郎がサヴァチエの植物学者としての評価をしている。医師としたサヴァチエを評価を体系的にしていない。横須賀在住の医者として、地元にも、日本にもフランス医療を普及したサヴァチエを書き残すのは横須賀の医者としては当然である。



会員紹介⑥

池杉 守 幹事
横須賀市在住、元電源開発(現JPOWER)勤務、元ISOGOエネルギープラザ館長
幕末から昭和にかけての歴史資料を一次資料から研究。ライフワークは聖書研究。趣味は愛車プリウスを運転すること。

会員登録宜しく

毛利塾からのお知らせ

6月9日土曜日 16:00から(三笠保存会100年の歩み)
6月23日土曜日 16:00から(ヴェルニー本の翻訳経過)
講座費 毎回1000円 @毛利塾(汐入町)
横須賀の魅力を発信する講座と意見交換
申し込みは mourijuku@jcom.zaq.ne.jp 16

会員募集中 年会費 1000円：寄付・賛助会員募集中